

令和3年度放射線安全取扱部会年次大会

(第62回放射線管理研修会) アンケート調査のまとめ

令和3年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会

令和3年10月28日(木)、29日(金)の2日間にわたり、令和3年度放射線安全取扱部会年次大会がオンラインで開催された。年次大会実行委員会では、参加者の動向を把握し、今後の部会活動や大会運営の充実を図るため毎年アンケート調査を実施している。今回は、オンライン大会であることから紙媒体ではなく、大会ホームページからアンケートに回答していただく形となり、参加証はアンケートページからの申し込みとした。参加登録者228名のうち92名から回答を得た(回答率40.4%)。その結果を以下に報告する。

1 年次大会について

今大会の各イベント運営(構成、開催の時期、会場等)への満足度についての5段階評価(5:満足、4:やや満足、3:普通、2:やや不満足、1:不満足)及び大会への意見やコメントの記載をお願いした。

図1に各イベント等に対するの評価点(平均点)とアンケート回答者中の参加者数を、図2に各評価の回答数を示す。

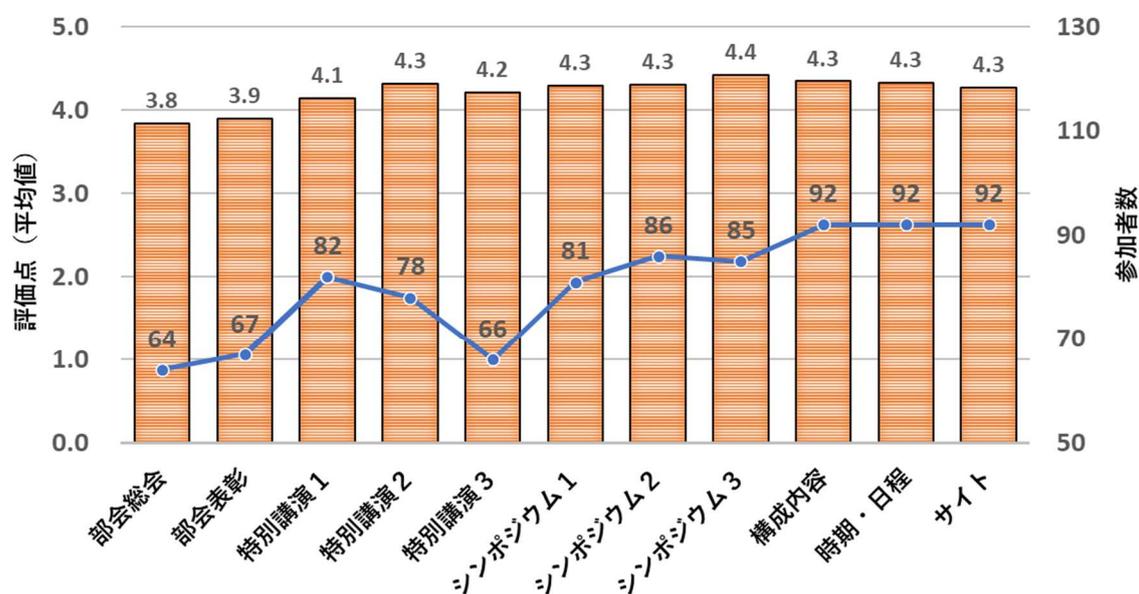


図1 年次大会各イベント・運営の評価点

評価点は、各イベント、運営で、4.0前後であり、おおむね全項目でやや満足いただいた様である。参加者数は、1日目最初の部会総会及び2日目昼休み後の特別講演3で若干減少したが、評価としては、堅調である。今回は、ポスター発表のかわりに、シンポジウム2の口頭発表となったが、情報発信の場所としての位置づけは評価されている。一方、相談コーナーは、期限までに応募がなく、開設しなかったが、従前のように当日申し込みでもいいのかという意見があった。相談を受ける方も準備が必要なので、厳しい面も存在する。機器展示、書籍コーナーは設定していない。交流会は、オンラインで開催したが、アンケートでの評価は実施していない。要旨集は、ホームページから各自ダウンロードしていただいた。

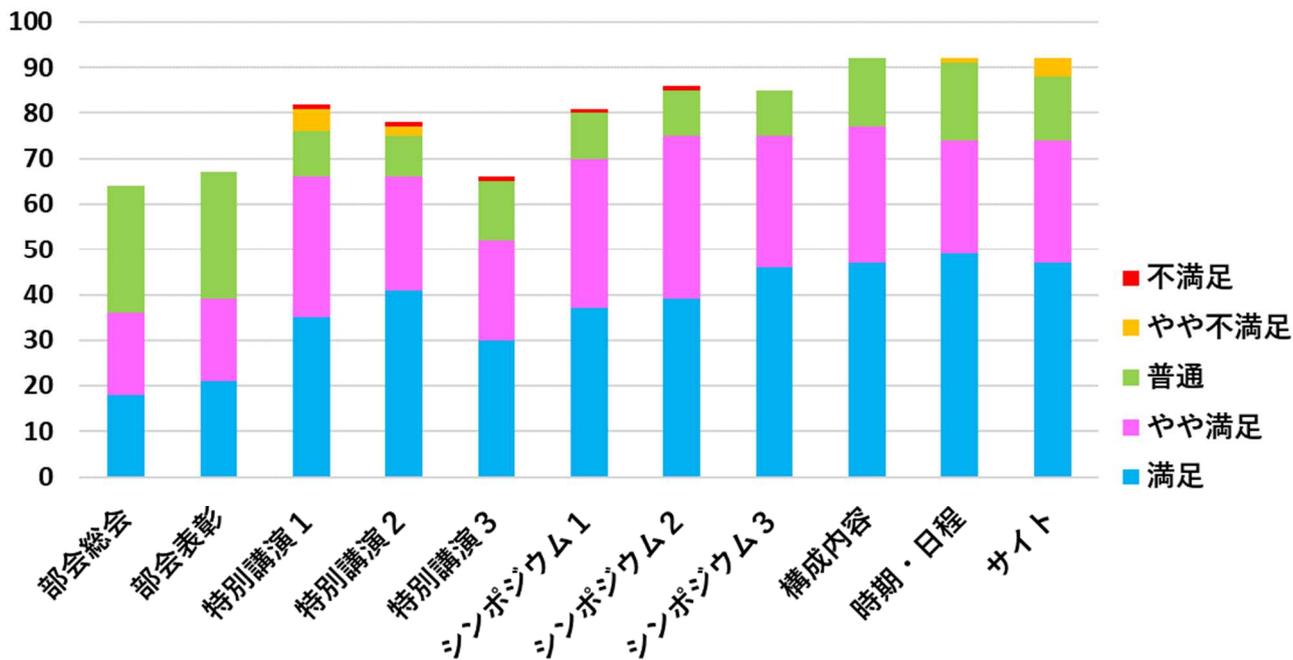


図2 年次大会各イベント・運営の評価内訳

構成内容について、評価点の平均は4.3で、「施設改修の経験や法令改正の対応など、講演もシンポジウムも大変参考になった」とのコメントがあり、一定の評価をいただいている。また、「Web開催で、内容も良かったです」、「Web開催は参加費のみで関わることができ大変ありがたい」、「今後もWeb開催を継続してほしい」、「平日開催は参加しづらいので、オンデマンド配信をお願いしたい」等のWeb開催継続を求めるコメントがアンケート回答者の中では多くあった。対面開催での交流を求める意見は今回強くなかったが、参加者を増やすためには、オンライン配信を含める対策を次回からは考慮する必要がある。

一方、Web会場の進行については、オンライン特有の不具合等（音声不良、映像不良）が発生し、ご迷惑をかけた。参加者、運営担当者が、連携して対処することが必要であり、今後改善されていくと思われる。また、「入金完了後から大会URLの連絡まで日が開いたので手続きが正しく完了しているか不安だった」とのコメントがあった。大会ホームページ開設が遅くなった点では準備を早めることが必要であった。

開催時期・日程、ウェブサイトの見やすさについては評価点平均4.3であり、評価をいただいている。

2 放射線安全取扱部会の活動について

2-1 興味のあるテーマ

興味のあるテーマとして選ばれたものを図3に示した。最も多かったのは例年通り「教育訓練」、次いで「緊急時の対応」であった。以下、「安全管理状況の点検」、「記帳・記録」、「設備・機器の品質管理」、「廃棄物処理」が関心の高いテーマとして続いた。項目は選択肢からの回答であり、選ばれた内容は例年通りである。

これ以外の自由記載では、「施設の廃止」、「安全文化の醸成」があった。オンラインでの投票形式のアンケートであったため、じっくりと記入することがなかった事も考えられる。

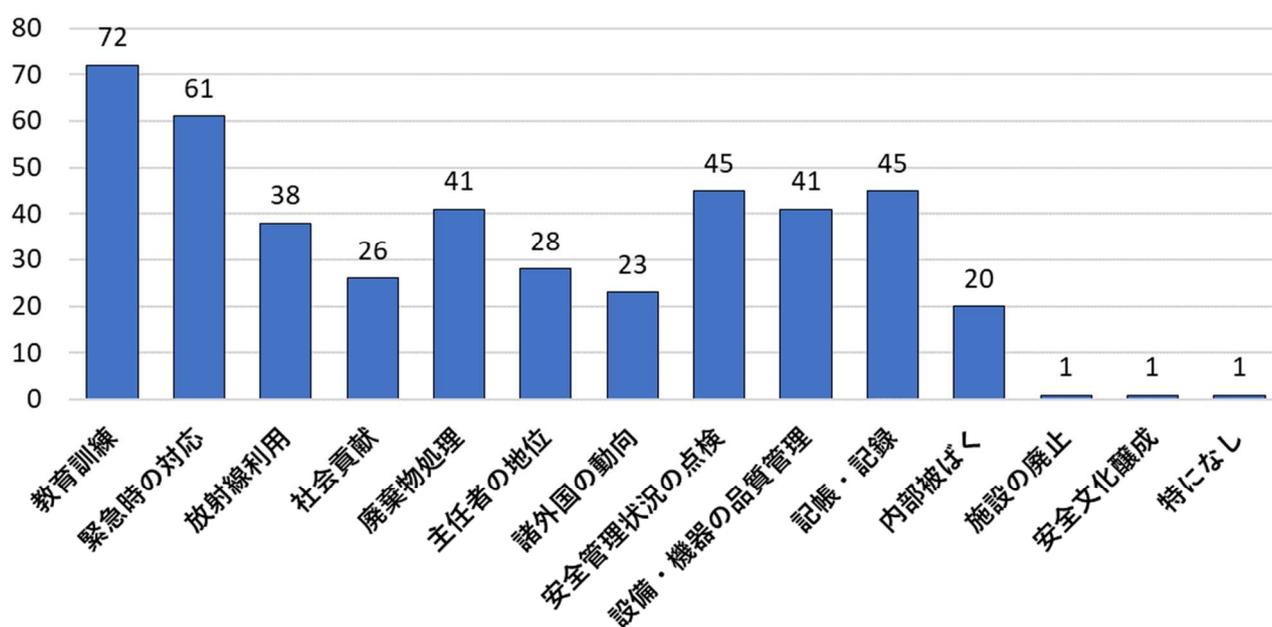


図3 興味あるテーマ

2-2 部会活動全般について

部会活動全般についての意見は以下のとおりであり、これまでの懸案事項、法令改正等の新しい事項について、情報要求があることがわかり、「主任者、管理者のための、自分たちの部会として活動いただければ幸いです」との要望に応える活動が必要だと感じた。

法令の解釈、立入検査の対応、主任者の地位向上、測定値の信頼性の確保に関する各事業所・メーカーからの情報、異業種への加速器（放射線発生装置）を使った委託照射などの紹介

3 参加者について

3-1 年齢、性別

年齢構成は、20歳代 5%、30歳代 15%、40歳代 28%、50歳代 36%、60歳代以上 15%であり、50歳代以上が約半数を占める（図4）。性別比では、男性 85%、女性 15%であった。

3-2 所有免状、身分について

複数回答は加算して集計している。所有免状は、第1種放射線取扱主任者が 86%で大半を占める。以下、第2種放射線取扱主任者 4%、薬剤師 4%、その他（診療放射線技師、医師等）であった（図5）。

身分は、管理職 15%、一般職 34%、教育研究職 33%、医療従事者 7%、放射線技師 8%、技術職員 8%であった（図6）。また、日本アイソトープ協会会員は 73%、放射線安全取扱部会会員は 52%であった。

3-3 参加頻度

参加頻度は、毎年参加が 39%、隔年が 11%、時々が 29%、初めてが 21%であった（図7）。

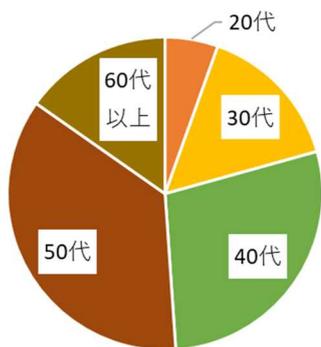


図4 年齢構成

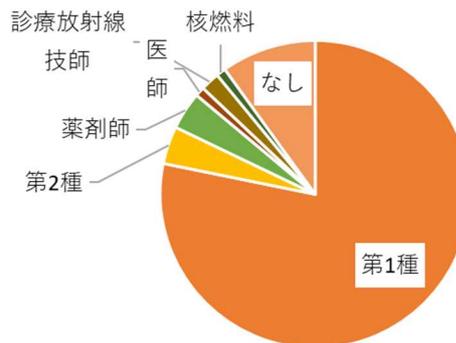


図5 所持免許

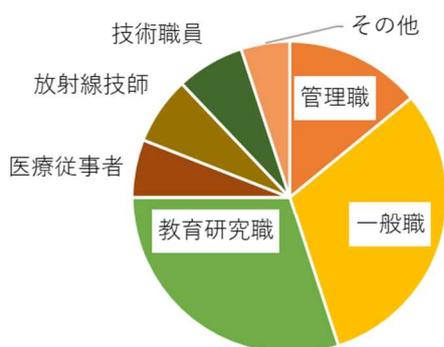


図6 身分

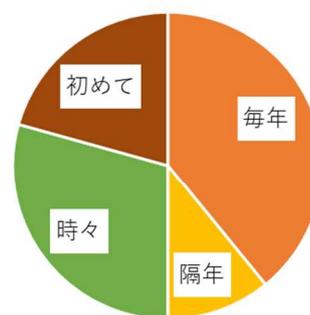


図7 参加頻度

4 参加者の所属事業所について

4-1 事業内容

医療機関が 10%、教育機関が 48%、研究機関が 24%、民間企業が 16%であった (図 8)。

4-2 使用形態

許可使用が 88%で大部分を占め、以下、届出使用が 4%、販売業が 1%であった (図 9)。

4-3 施設

複数回答は加算している。非密封が 62%、密封が 15%、放射線発生装置が 15%、設計認証機器が 1%、非破壊検査が 1%であった (図 10)。

4-4 所在地

北海道 0%、東北 8%、関東 36%、中部 13%、近畿 16%、中国・四国 14%、九州 13%であった (図 11)。

4-5 放射線業務従事者数

20 人以下が 26%、20～100 人が 42%、100～300 人が 13%、300 人以上が 14%であった (図 12)。

4-6 選任主任者数

1 人が 38%、2 人が 32%、3 人が 7%、4 人が 9%、5 人以上が 9%であった (図 13)。

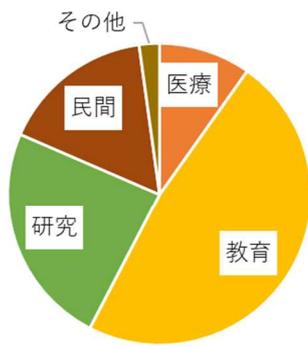


図8 事業内容

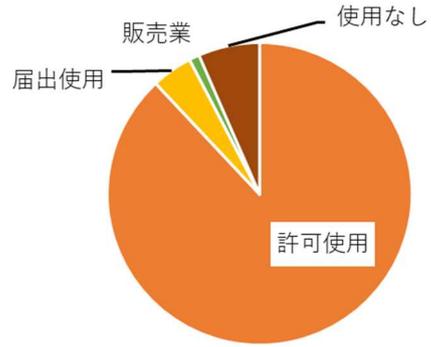


図9 使用形態

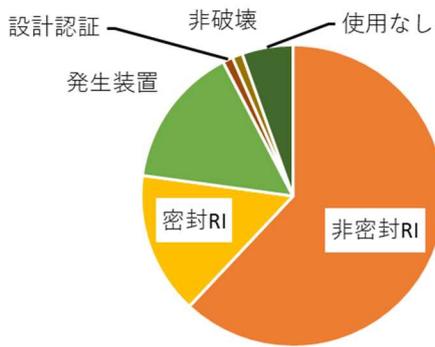


図10 施設の種類の種類

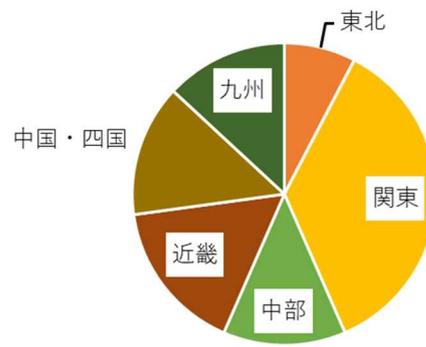


図11 所在地

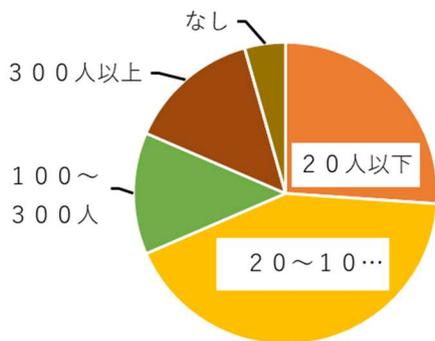


図12 放射線業務従事者数



図13 選任主任者数

おわりに

今回の年次大会は、九州支部が担当し、熊本市での開催となる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症まん延によりオンライン大会となりました。テーマを「実践しましょう！ “正當にこわがる” ことを」とし、全国各地で引き続き災害等への備えの一助となるような大会をめざしました。アンケート結果では、企画内容についてはおおむね好評で、特別講演、シンポジウムの講演者の方々には感謝申し上げます。また参加者の皆さんには、日頃の安全管理の参考にさせていただければ幸いです。

末筆になりましたが、大会にご参加いただいた皆様、アンケートにご回答いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。
(杉原真司)